



# 会津医療センターから こんにちは！



## 【20】 漢方医学講座 教授 三瀧 忠道

### 『近代医学と先人の知恵』

**あ**の時は死ぬかと思った！ 約1年前から受診されている70代の女性が、こう振り返られました。体調不良で受診されたのですが、はっきりした痛みや苦しさもなく、食欲、便秘、睡眠など何をお尋ねしても、一般的な検査でも、異常らしいところがありません。

しかし、脈や舌、腹部について漢方医学的に診察すると、唯一、へそを中心にお腹に強い冷えがありました。そこで、2000年ほど前から「腹中冷」に用いられている大建中湯（だいけんちゅうとう）を処方したところ、徐々に体調がよくなりました。

腸の難病で下痢が止まらず、「もう二度と口から食事ができないだろう」といわれた40代の女性が、この大建中湯によって、普通の食事をして下痢をしなくなり退院できたこともあります。漢方薬の中でもよく使用される薬で、外科では腹部の手術後に使用し、回復を早めることでも知られています。

しかしこの漢方薬、中身は山椒（実）、しょうがを加熱して乾燥させた乾姜（かんきょう）、人参の三つを水から煎じ、良質のアメ（膠飴（こうい））を溶かしたものです。素材を知るとまるで食べ物ようですが、使い方次第でいろいろな病気に威力を発揮する薬にもなるとは、昔の人の知恵にビックリします。ただし、人参だけは普通の野菜ではなく、徳川吉宗が全国に種子を配って栽培を奨励した御種人参（おたねにんじん）＝高麗人参で、会津は全国的に有名な産地です。

人生はおおむね100年以内、その間をいかに快適に、生きがいを持って過ごせるか、です。これを医療の面からお手伝いするのが、われわれ医療人の役目です。会津医療センターでは、現代の先進的な医学はもちろん、日本の伝統医学である漢方（漢方薬や鍼灸診療）も取り入れ、より良く、より早く健康的な生活を送っていただけるように努めています。

「ああ、救われた！」「元気に好きなことができるようになった！」。こんな言葉をお聞きすると、私たちも医療人として生きがいを感じ、嬉しくなります。これからも地域の皆様と協力し、楽しく生き甲斐のある地域づくりのお役にたちたいと願っています。